

令和7年度 住之江区区政会議

第3回 はぐくみ・教育部会 会議録

1 開催日時 令和8年2月19日（木）19時00分から20時00分まで

2 開催場所 住之江区役所3階 第3-1、3-2会議室

3 出席者

〔区政会議委員〕

小川 宗治委員、杉村 和朗委員、高江渕 将委員、茶谷 尚世委員

高橋 邦恵委員、津村 早苗委員、畑中 信人委員

（出席7人／定数8人）

〔住之江区役所〕

玉置 信行 副区長

藤原 学 子育て支援・教育担当課長

松本 勝也 保健福祉課長

福田 佳代子 保健担当課長

稲村 英明 子育て支援・教育担当課長代理

大家 典子 保健福祉課長代理

本田 弘美 保健副主幹

○藤原子育て支援・教育担当課長

皆さんこんばんは。お待たせしました。定刻となりましたので、ただいまから区政会議第3回はぐくみ・教育部会を開催させていただきたいと思います。

本日は、お忙しいところお集まりいただきましてどうもありがとうございます。

それでは私、事務局の住之江区役所の保健福祉課子育て支援教育担当課長をしております、藤原と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日出席いただいている委員をご紹介させていただきたいと思います。

机上に置かせていただいているこの配席表で、順番にご紹介させていただきたいと思います。

まず、部会長であります、杉村部会長でございます。

○杉村部会長

よろしく願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、順番に小川委員でございます。

○小川委員

こんばんは。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、高江洌さんでございます

○高江洌委員

お願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、高橋委員でございます。

○高橋委員

はい、よろしく願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、茶谷委員様です。

○茶谷委員

茶谷です。よろしく願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、津村委員です。

○津村委員

はい、よろしくお願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

最後に、畑中委員でございます。

○畑中委員

お願いします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

よろしくお願いします。

勝原委員につきましては、ちょっと今のところ遅れられているということでお聞きしてあります。また、この本日の出席者につきましては、全委員8名中7名の出席ということとなっております。

定足数である委員定数の2分の1以上満たしておりますので、ここでご報告をさせていただきます。

なお、住之江区役所の出席者につきましては、先ほどの配席表にて、ご確認をお願いしたいと思います。

また発言する際は、こちらの役職と名前をお伝えしまして、報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まずは、この会議につきましては、個人情報などの非公開情報がございませんので、基本公開とさせていただきます。

また、本日の傍聴者はおられませんので、ご報告までということになっております。

なお、大阪市では、近年の気候変動対策をはじめとする環境施策や職員の働き方改革の観点を踏まえまして、軽装勤務の通年化を実施しております。気温や体調等に応じた快適な服装での会議出席となりますので、ご了承いただければと思います。よろ

しくお願いいたします。

なお、本日の議論内容につきましては、3月17日火曜日に開催予定であります、区政会議全体会で部会長からご報告いただき、情報共有を図っていきたいと思っております。

また、議事録につきましても、後日公表となります。公表する際は発言者と発言内容についても公開されますので、ご承諾をいただきますようによろしくお願いいたします。

また、広報や記録のために写真を撮影させていただきますので、併せてご了承いただければと思います。よろしく申し上げます。

それでは、会議を始める前にお配りさせていただいている資料の確認をさせていただきます。

まず1点目が、こちらの第3回はぐくみ・教育部会という次第でございます。ございますでしょうか。

続きまして、はぐくみ・教育部会の委員名簿ということで、裏面には区政会議全体の委員名簿を掲載させていただきました。

○藤原子育て支援・教育担当課長

続きまして、住之江区区政会議はぐくみ・教育部会配席図ということで、こちらございますでしょうか。

続きまして、資料1としまして、令和8年度住之江区運営方針ということで、ございますでしょうか。ちょっと前の画面にも出ております。

資料2としまして、いただいたご意見と対応方針ということで、前の資料ですね。こちらございますでしょうか。

資料3としまして、区政会議についてということで、裏面には地域活動協議会についてのご案内もついております。資料3について、ございますでしょうか。

資料4としまして、基礎学力アップ事業のチラシですね。皆さんにお配りしており

ますけども、ございますでしょうか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

また、「本日のご意見をいただきたい事項」ということで、こちらもございますでしょうか。ありますでしょうか、はい。不足等ございませんでしょうか。大変、ちょっと順番もばらばらで申し訳ございません。

それでは、本日の会議等につきましては、現在策定に向けて進めております、令和8年度の住之江区運営方針（案）について、まずご報告させていただきまして、来年度の各取組がよりよいものとなるよう、ご意見をいただきたいと思っております。

本日は、8時までの1時間を予定しております。スムーズな議事進行にご協力をお願いしたいと思います。

なお、今回の会議から資料の様式を変更しまして、より見やすく分かりやすい内容となるよう工夫いたしました。具体的にはですね、中長期的な施策の方向性を示した「将来ビジョン」と、単年度ごとのアクションプランである「運営方針」に関する解説を記載したほか、課題設定の根拠となる現状・データを記載し、経営課題ごとに戦略や具体的取組をご確認いただけるよう構成しております。

それでは、ここから議事を開始させていただきたいと思っております。ここから杉村部会長にお任せしまして、進めていきたいと思っております。それでは引き続き、杉村部会長よろしく願いいたします。

○杉村部会長

それでは、部会の議事を進めさせていただきたいと思っております。皆さんよろしく願いします。

本日、令和8年度住之江区運営方針について議論をいただきます。

早速ではございますが、事務局より説明をお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうしましたら、こちらの「令和8年度住之江区運営方針（案）について」説明をさせていただきたいと思います。

まず運営方針とは、住之江区役所が重点的に取り組む課題を挙げておりまして、その課題を解決することを目的とした取組を掲げたものとなっており、令和8年度も「子どもに関すること」「地域と福祉に関すること」「防災防犯に関すること」の3つの経営課題を掲げております。

当部会では、そのうちの経営課題1「子どもたちの未来のために」についてご議論いただくこととなっております。

資料には、この課題でめざす主なSDGsゴールも掲載しております。ご参考にご覧ください。

それでは、具体的な説明に入らせていただきます。

資料1枚をご覧ください。

2ページ目以降に、これまでの取組の課題と方向性を踏まえた具体的な8年度の計画を記載しております。

この資料に基づき説明をさせていただきたいと思います。

なお特にご意見をいただきたい箇所については、先ほどお示ししました別紙でご留意しております。よろしく願いいたします。それではこちらの資料に基づいて簡単に説明をさせていただきたいと思います。

まず3ページ、子どもたちの未来のためにということで、1-1安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまちということで経営課題1を記載させていただいております。こちらにつきましては令和7年度の子育て世帯の保護者アンケートということで、区が発信する子育てに関する情報の入手先ということで、それぞれパーセンテージで書かせていただいております。令和7年度の子育て世帯アンケートにおいては、区が発信する子育てに関する情報の入手先は、やはり広報紙さざんか、あるいは子育て支援情報誌わいわいが上位を占めておるといような状況でございます。

続いて4ページをご覧ください。

4ページにつきましては、1-2子どもがいきいきと学び成長していくまちということでございます。全国学力・学習状況調査における本市小学生並びに中学生の平均正答率は全ての課目において国平均を下回っており、区においても同様の傾向があるというような状況でございます。本市の小学生及び中学生は、国に比べて授業以外の学習時間が少ないという傾向ございまして、区においても同様の傾向があると、近年その傾向は変わらない状況になっております。一方、下段のほうの全国学力・学習状況調査については、自分によいところがあると思いませんか、あるいは将来の夢や目標を持っていますかという質問に対する区内小学生並びに中学生の肯定的な回答についても、いずれも本市の小学生、中学生は国平均を下回っておりまして、区においても同様の傾向があり、近年その傾向は変わらない状況でございます。

5ページ以降ですね、子どもたちの未来のためにということで経営課題1を記載させていただきます。

まずめざす成果及び戦略ということで、1-1安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまちということで掲げさせていただいております。めざす状態としては、未来の担い手である全ての子どもが、家庭や地域で愛されながら個性豊かにたくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざしております。主な戦略としましては、妊娠、出産、乳幼時期、学齢期、青少年期の各ステージに応じて切れ目なく子育てをサポートするとともに、課題を抱える家庭や子どもへの支援などを行うということと、子育ての悩みをみんなで相談し合ったり、子育てに関する有益な情報が確実に入手できる環境の整備を進めることとしております。

続いて6ページですね。

1-1-1支援が必要な児童生徒への取組ということで、こちらにも書かせていただいております。取組内容としましては、学校等と連携しまして児童や保護者の状況

や悩みを傾聴し、地域による子どもの支援の取組、児童支援に取り組むNPOなど民間の取組を含めた利用可能な支援を提案し、児童や保護者のニーズに合わせて利用に向けたサポートを行うというような取組にしております。

続きまして7ページ。

具体的取組1-1-2ということで、全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備ということにしております。今年度の方向性につきましては、子育て情報をホームページやSNSを通じて、引き続き継続的に発信するとともに、子育てに関する困り事や悩みについて、気軽に相談できるよう子育て応援イベントなどの多様な機会を捉えまして、子育て世帯に情報が届くよう効果的に情報を発信するという方向性を記載させていただいています。取組内容につきましても、例えば乳幼児健診や地域担当保健師、子育て支援室に等による相談対応、保育所、幼稚園等との連携、4歳児を対象とした訪問等を通じて、妊娠期から修学に至るまでの間、切れ目なく子どもの状況を把握するとともに必要な支援を行う、あるいは特に2歳児を養育する保護者にはがきを送付しまして、子育てに関する困り事で相談、連絡があった保護者に対して家庭訪問を行うなど、個々に応じた必要な支援につなげていく、あるいはこの手続ケアプランを母子健康手帳交付時に配布しまして、妊娠期から就学前までに最低限必要な手続きや、相談先の情報を時系列に分かるように支援を行うことなどを掲げております。一番下のところですが、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもに対して、母子保健、児童福祉の両機能が連携して切れ目のない一体的な相談支援を行うことを目的として、令和6年4月に設置された子ども家庭センターを円滑に運営するということでの取組内容を記載させていただいております。

続きまして8ページをご覧ください。

8ページ、経営課題1につきましては、子どもたちの未来のためにということで、1-2子どもたちがいきいきと学び成長していくまちということで項目を掲げております。めざす状態としましては、未来の担い手である全ての子どもが、家庭や地域で

愛されながら個性豊かにたくましく育っていくよう区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざしております。主な戦略としましては、地域や民間との連携の下、誰もが安心して勉強ができる環境の充実を図り、学習を楽しむ体験をすることで学習意欲が向上するよう促していく、あるいは知識だけでなく学ぶ意欲や課題を見つけて解決していく力を養い、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちとやり抜く力を育むということの戦略を掲げております。

続きまして9ページ。

1-2-1 児童生徒の学力の向上に向けた取組ということで、今年度の方向性につきましては、参加者数の増加につながるような効果的な手法等を検討し、学校及び事業者との連携強化に努めるという方向性にしております。取組内容としましては放課後の学校施設を利用しまして、大阪市習い事・塾代助成事業を活用した、民間の塾事業者との連携による課外事業、基礎学力アップ事業を、今お渡ししております、こちらのチラシがこの基礎学力アップ事業になります。こちらの分につきましては、週2回程度各学校で行いまして今のところ言いますと、中学校は加賀屋中学校あるいは南港南中学校、真住中学校住吉第一中学校の4校、小学校につきましては、安立小学校、住吉川小学校、住之江小学校、平林小学校、新北島小学校、南港みなみ小学校において実施するとしております。また、支援を必要とする児童に、学校やスクールソーシャルワーカー、福祉関係者等と連携しまして、それぞれの理解度や特性に合わせた少人数体制での学習支援、こちら放課後チャレンジ教室授業を小学校施設で行うこととしております。

最後10ページをご覧ください。

10ページにつきましては、1-2-2 チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つめたりする機会づくりということで、今年度の方向性につきましては、チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり学習の目的を見つめたりする機

会づくりを、学校の授業の一環としても実施できないか、学校に事業者など関係先との連携を図りながら検討していくという方向性にしております。続いて、取組内容につきましては、キャリア教育の一環として小中学生を対象にプログラミング的思考力、論理的思考力を育むことで、思考力、課題解決力、判断力、表現力等の資質能力の育成をめざすプログラミング教育を題材とした体験学習を開催するであったり、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちを育み、子どもたちがこれからの社会を生き抜く力を身につける機会を創出する、あるいは楽しく遊び感覚で運動に取り組むことで、幼少期から運動習慣を身につける機会を提供するといった取組内容にしております。

最後に、子どもたちの未来のためにということで、こどもサポートネットの枠組みであったり、情報発信の内容を書かせていただいております。

12ページにつきましては、今取り組んでおります民間団体や企業との連携による学習支援、学習指導を実施している内容を書かせていただいております。

最後に下段のほうですけれども、キャリア教育ということで児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲、態度や能力を育てる教育として、実践内容を書かせていただいております。

特に、先ほど申し上げましたように、今回特にご意見いただきたいというところで、9ページに戻りまして、先ほどの基礎学力アップ事業ですね、こちらのチラシの分ですね、参加者数の増加につながるような民間の事業者さんとの連携による課外授業への参加者数増加につながるよい取組につきまして、特にご意見をいただければと思います。そのほかにも何なりとご意見もいただけたら幸いです。

ご不明な点等ございましたら都度おっしゃっていただければと思います。

それでは、事務局からの説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○杉村部会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各取組についてのご質問や、よりよい取組にするために必要なこと、また事務局から特にご意見をいただきたいと言われていましたこちらの学習塾の件も含めて、皆様のご意見、ご提案をいただければと思いますので、なるべく多くの委員からご意見をいただきたいと思っておりますので、簡素にできたらお願いいたします。どの取組からでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

○杉村部会長

私からいいですか。現状の参加者とか、教えてもらったら助かります。定員が記載してあるのですが、定員に足りているのか足りていないのか含めて、現状を教えてください。

○藤原子育て支援・教育担当課長

まず令和7年度はまだ実施途中ですので、令和6年度の実績から報告させていただきます。令和6年度1年間で合計760回実施しております。先ほど書いておりましたとおり、小学校では6校、中学校では4校ということになっています。6年度については実施回数が760回で、延べ人数で6,402人に参加いただいているという状況です。何分この6小学校と4中学校の10校になります。そういったところで徐々に実施、令和5年度から実施しているような状況でございます。

以上でございます。

○高江洩委員

すみません、これって今令和8年、今令和8ですよ、

○藤原子育て支援・教育担当課長

7年度っていう、行政的には。

○高江洩委員

そうなんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

年度で言うのです、すみません、分かりにくいですよ。

○高江洌委員

今が、じゃあ令和7年。

○藤原子育て支援・教育担当課長

今、令和7年度なので、4月からずっと行って3月で令和7年度が終了するという事です。

○玉置副区長

今お示しできるのが、令和7年度のチラシが最新版だったので、実は令和8年度に向けては、今事業者を新しくまた公募しているのですが、これから増えていく段階ですので、今お示しできているのが今年度のものでございます。

○杉村部会長

イングって住之江にもあるあの学習塾でイングさんですよ。ありましたよね。うちの娘も行ってたので。

○藤原子育て支援・教育担当課長

事業者自体が塾を実施していて、この事業者と協定を結びながら実施してもらおうと。中学では塾代助成なので1万円使う、小学生でしたら5,000円を使う、そういった形でここにも書いておりますように実施していると。その塾代バウチャーを使ってやろうかというところで、区役所としてもお金はあんまりかかってないのですね。そのバウチャーを使うことによって、業者さんがやっていただけると、イングさんにやっていただいているというところですね。

○小川委員

1回平均8名って少ないですよ、8人ぐらいということですよ。

○杉村部会長

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。

○杉村部会長

定員、定員30名って書いてる、1回8名か。

○小川委員

ぐらいですね。

○高橋委員

またね、前回と同じなのですが、私正直知らなかったです。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ああ、すみません。

○高橋委員

前回もね、子どもが持って帰ってきてもかばんの中に入れてっ放しやったとかね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね、はい。

○高橋委員

そんなんありましたけど、うちもちょっと6年生なんですけどね。

今も、5年生のときから通おうと思えば通えたのであろうけど知らなかったというところで、私もちょうと自分から探しに行くこともなかったの。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。そういった広報のところで、ホームページでも載せられるように、やっていくようにします。ありがとうございます。

○高江洩委員

これは、学校では先生は配ってくれるのですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

配ってもらっています。

○津村委員

もらったことがあります。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ああ、あります、よかったです。

○津村委員

ただ、でも、こういうのって広報紙とかでは、こういうことやっていますというのは載せているのですかね。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

ピンポイントでは載せてはおりませんので。

○津村委員

それやねやったら、さざんか結構見られる方が多いんやったら。こういうのをね、載せたほうが。

○杉村部会長

ありがとうございます。

○津村委員

見る方多いのかなと思って。

○杉村部会長

区民の半分は、そうですね。

○津村委員

ですよね、結構パーセンテージ。結構高いなと思って。

○杉村部会長

区民の半分は見てくださっているのです、そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

さっきの、ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。

○高江洩委員

ちなみにですけど、中学生のこの月1万は安いんですか。

○小川委員

安いね。

○杉村部会長

安いと思いますね。

○津村委員

うん、安い。

○高江洩委員

安いですか。

○杉村部会長

高校受験をめざせば。

○小川委員

3万じゃ終わらん。

○高江洩委員

そうなんですね。

○杉村部会長

ここは、私立対象ね。

○高江洩委員

ああ。

○杉村部会長

はい、めっちゃ高かったです。

○津村委員

高いという。

○杉村部会長

ぞっとしました。夏期講習とか地獄ですからね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ですよ。ですね。

○津村委員

ちょっと泣きそうになりますもんね。

○杉村部会長

泣きそうになる。そんな取られるんやっていうぐらい。

○高橋委員

それで言うのであれば、やっぱり実績とかが必要になってきますよね。

○杉村部会長

あ、塾のですか。

○高橋委員

はいはいはい。

○小川委員

これに通ってってことやんね。

○高橋委員

そうです。

○小川委員

どこどこ入れましたって。

○杉村部会長

各塾は、多分、僕が答えていいんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

どうぞどうぞ。

○杉村部会長

各塾は、多分実績出してるんですよ。私の娘もちょうど中学、高校、中学受験したんで、小学校からイング行って、そこの十字路の名前ちょっと忘れたけど、あのオレンジ色の塾行ってたんですけど、中学校自体はその塾で合格実績って上げてると思うんですね。そういう意味では、イングさんがやっているというのは、多分イングの合

格実績のある先生が来るので、それも含めてPRしていけば多分今言っていたように実績って意味では、そこの先生がしっかり、どうなっているか分からないですよ、中身、その塾の先生が教えに行く余裕があるのかどうか分からないのですが、塾の先生がしっかり教えに来ているというのであれば、塾はもっとPRするべきやと思いますし、それと自分の塾の進学率というのを含めて、この先生がここに教えに来ますって意味では、そういうこと記載すればもっと通わしたいなど。

○小川委員

塾は、塾は言えへんのちゃう。

○高江洩委員

塾は言わない。

○小川委員

塾は自分の塾来てよしか言わない。

○杉村部会長

でも、これ自分の塾の先生を派遣しているのであれば。

○小川委員

いや、これプラス塾も来てねみたいな話やったらできるかも分からんけど、こっちだけで完結するねやったらやらんやろうねと思って。

○杉村部会長

いや、イングがこれに申し込んでる意図が、小川委員の言うとおりであればそうですし、月1万円というのが本当に私立受験をめざす生徒なのか、公立受験をめざす生徒なのか、基礎学力アップをめざす生徒なのかによって、多分狙いは違うと思うんですけど、えっと塾側がどの目的でこの先生を派遣しているのかということも含めて、理解、こっち側が分かれば、多分。

○高江洩委員

一流の先生は行かなさそうですもんね。

○杉村部会長

そう言われたら、そうなりますよね、一流の先生。

○高橋委員

中学生の場合は絶対高校受験があるので。絶対的に、こういうのを具体的にどんなことしているのかとかが、自分たちから申し込んで聞きにいかないと分からないというのではなくて、大体一般的な塾って、自分とこで宣伝するんで。こんだけの実績があって、こういうことを教えて、こういうカリキュラムでやってますとかっていうのが、具体的に出るじゃないですか。そういったところを見ると、じゃあこの金額で1教科何ぼですかっていう話で。で、まあまあ時間帯的には1時間はやっている、というところと言ったら、そんなもんあんまり期待できないのかなというところで、申込みはしないですね。

○小川委員

このQRコードを読んで、この5ついるのであれば⑥で基礎学力アップなのか、高校受験対策なのかで、普通に3つ選んでもらったら。どういう意図で申し込んでるのかっていうのは。

○高橋委員

すみません、これ開けてないから分からないですけど。

○玉置副区長

副区長の玉置です。いつもお世話になっております。

今お話ありますように、もともとが基礎学力をとということをしてますので、本当にすごく何か高校受験のちょっと語弊あるかもしれませんが、何かすごい、さらに何かハイレベルなということというふうな趣旨では、どちらかと言ったらないのかなというのを思っただけだと思います。ただ、もともと大阪市でこんなことやってますのは、要はそういった形で塾代とかも支払うことができないから、なかなかそういったところ行けないとかいうふうな子どもたちというのは、何とかそういった経済

的な理由で行けないということのないようにしようというふうなことです。私も、たまたま昨年度別の区におりましたときに、このイングさんがやっておれるまさにこういったようなことをやってたので、ちょっとそのときの状況で言いましたら、イングさんというか趣旨としては、やっぱりこういったところで広く知ってもらって、ただもっともっと頑張りたいなとか、もっともっと楽しくなってきたよとかこれに入って、そういう子どもたちにとってはちょっと消化不良のところもあると思うのですね、イングさんが独自で夏期講習とか、それがあつた場合こういうのもあるよとかね、だからそういうようなことをイングさんのほうでは言っておられたりというのはあるので、そういう意味では、まさに小川委員言っておられたようなところの狙いはイングさんも持ってはると。ただ私らももっと基礎学力をアップ、やっぱり公立公教育なんて底上げを底上げをっていうふうな思いがありますので、そういった事業をやっておるのが状況ではございます。

○小川委員

その底上げするのであれば、オンラインとかもいけるのですか。まだ、ない。

○藤原子育て支援・教育担当課長

これは学校一応活用して、普通の民間事業者さんやったら場所にいるじゃないですか。それを学校がちょっと一緒にやることによって、場所代をちょっと削減することによって、こういった還元というか1万円でも受けていただけるようなちょっとメリットもまとめながら。

○小川委員

その中に行けない子であったりとか、この時間帯は無理やから録画しといてくれたら見れるよとか、多分そういう子もいてると思うですよ。学校に行きたくないとか、いたくない子がいてるとか、いろいろな課題があると思うので。そこも上げてあげるんやったら、オンラインとか動画とかって。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応事業者さんから提案を受けて、協定書を結ぶ形にしています。提案を受けて、どこの事業者さんかっていうのを外部の先生方に選んでもらうような形なので、今回の提案にはウェブというのがなかったので、今後そういった辺も含めて、ちょっと調整もできるところはしていきたいなと思います。ありがとうございます。

僕先ほど言ってましたように、基礎学力というところになりますのでね、やっぱり住之江区としても、平日家で勉強した時間というのが市平均、府、国平均に比べて非常に低いんですよ。小学校児童の半数以上が30分までの勉強時間で、全くしないという児童もいております。これは中学校生徒も同じ傾向です。だから市平均に行くとかじゃないですけど、学習習慣とか基礎的な学力アップということと、あとそこでやる気が出てくれば次の、小川委員言っていた次のステップアップみたいなのところもありかなと思いますので、まずその勉強できるというその環境を、学校でできるという環境をちょっとやっていきたいなというところで実施しているところでございます。

○小川委員

多分今の子どもたちって、そっちってあんまり、何か全然そういうの見て、動画見て勉強になるんやったら見ようかなっていう子は多分多いと思うんですよ。そういう動画見慣れてるので。僕さっきも全国学力見てたんですけど、多分東京1位かなと思ってて、みんな受験戦争があるから、東京都かなあと思ったら1位秋田県やって。

○小川委員

あれ全然違うんやなと思って、秋田、石川、山梨とかでしたね。

○杉村部会長

東京と大阪低いですかね、ぶっちゃけ。

○小川委員

寒いほうが、何かってことで。

○杉村部会長

東京、大阪低いでしょ。

○小川委員

いや、でも東京やっぱ全国平均で言うと2位とかなってるところがあります。数学2位とかはなっていましたけど、1位は秋田です。

○藤原子育て支援・教育担当課長

秋田、ですね。

○小川委員

そこは、あんま関係ないんやなと思って。だから環境をつくってあげたら、伸びるとは思うのですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

今言うと、小学校で6校しか、先生のご協力ともあるのですけど、その辺り中学校も4校ですね。やっぱりいろんな機会をできる触れ合える機会をやっぱり区役所としてもつくっていきたいなと思ってます。なかなか、先ほど副区長がおっしゃったように、経済的に行けない子どももやはりおられますので、そういった環境整備という部分では、非常にいい意見かなと思いますので、今後もほかの学校にも広げるというのもすごい、ありがとうございます。

○杉村部会長

ほかに、ご意見ある方いらっしゃいますか。

○小川委員

これって多分、学校の先生が一番理解してると思うんですよ。子どもの学力。学校の先生分かってるんやったら、言ってあげたらいいのになって思いますけどね。点数分かってるの先生やからね、一番。

○藤原子育て支援・教育担当課長

学校によっては、やっぱりプッシュしてくれる方もいらっしゃるの、家帰ってできないんやったらここ行きとかね、保護者面談のときに声かけていただいたりとか、

そういうのはこういうふうに行ったことによって、積極的に声かけは先生やっていた
だいてるので、その辺はありがたいかなと思います。

○小川委員

先ほど、多分知らなかったってお話あったので、面談のときとかに教えてもらった
らね、そこで分かりますし。

○高橋委員

そうですね、個人懇談とかですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

あ、はい、ありがとうございます。

○杉村部会長

子どもたまらんでしょうけど。

○高橋委員

隠してたのに。

○茶谷委員

周知なんですけど、そのさざんかとかに載せるというのもそうだし、その授業して
いる風景、やっぱ楽しそうにとかかしてるところを動画なりなんなりホームページ
とかでも見られたら、これ配られて行こうとならないんと思うんですけど、動画とか
見て楽しそうに勉強してるとか、ちょっと行ってみたいかもって思ったら多分一歩が
出るような気がするんですね。でも、これだけやと、どんな子が行ってるんかとかも
全く分からない。どんなふうに授業が行われているのかも分からないし、その学力、
基礎学力を上げるという、そもそも勉強しに行こうとしてる子ではなくて、苦手って
いうところだったらより多分一歩が出ないと思うので、だからちょっと行きやすい風
景を。

○藤原子育て支援・教育担当課長

イメージをね、湧きやすい。

○茶谷委員

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

分かりました、ありがとうございます。

○茶谷委員

写真であっても、何かしらあれば。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

ちょっと今学校のほうで、子どもの顔が映ったらあかんとかあるので。ちょっとどこまで行けるかあれなんですけど、ちょっといいご意見なので、雰囲気が分かるようなね。

○茶谷委員

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね、ありがとうございます。

○杉村部会長

いいですか。すみません、えっと中学3年生に、これ基礎学力は残しといたほうがいいのかもしいないですけど、中3ってもう高校受験を控えてるんで大概の子塾行ってるケースがほとんどだと思うのですよね。であれば、1年から2年に対象を絞ったほうがいいのちゃうのかなと思ってて、ただ基礎学力っていう意味では、全員が全員高校行くわけではないので、その子じゃあ拾えなくなるということになってしまうのでよくはないと思うのですが、中学も小学校も中学受験する子はもう6年絶対塾行ってると思うので。逆にごめんなさい、僕の親のほうからすれば、中学受験、高校受験は6年生から始めたら遅いという文言を入れてね、4年生から始めたほうがいいよね、5年から始まってるとよという感じで、6年にちゃんと塾行くような感じでという形で

促していけばイングもうれしいやろうし。

○津村委員

何やったら、5年生やったら若干ちょっと遅めやね、中学校受験。

○杉村部会長

僕もそれやと思うんですよ、何ならね。中学受験する場合、4年生ぐらいから3、4年から行っというほうがいいんで、そういう意味では受験へのこの前向きな、そうしたらよくないか、目的ずれてきますね。

○小川委員

この塾代助成カードは、何年生から。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応5年生からなんですよね、おっしゃっていただいているように。やっぱりその5年から使えるので、4年からやると別にこう役所がやらんでも、塾でやってもらうっていうのが一般的かなと。そういった経済的に敬遠される5年から、ちょっとやっていこうというような塾代バウチャーを活用したというところにちょっと重点を置いて、やっているような。

○杉村部会長

中学校は1年から行けます。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね、1年から。

○杉村部会長

そういう意味では、高校受験、中学校1年から塾行ってる子もちろんいますけど、まあ2年3年から行くケースのほうが多分大体やと思うので。まだ間に合いますかって。ほとんどやと思うので中1からって、ごめんなさい、本来の目的からずれますね、副区長がおっしゃってた。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いえいえ、全部ありがとうございます。

○茶谷委員

あれ、あのここにね、一人の講師につき生徒4人以下って書いているから、例えば定員40名だったら先生10人いるってことですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

先生が参加者によってちょっと増やしたりとか、いろいろな配慮のいる子どももおられるときは、その辺は柔軟にやっていただくような形で、一人でなかなかいっぱいを見るっていうのは難しい場合もあるので、そこは柔軟に対応できますよというような形では言ってます。

○杉村部会長

ということでも、今茶谷委員がおっしゃったように、これ書いてるってことは10人来てくれるってことですよ、定員まで来たら。

○茶谷委員

と思っちゃいますよね。

○津村委員

うんうんうん。

○茶谷委員

あ、そうではないんですね。

○杉村部会長

いや多分そうなんでしょうけど、ハイクラスの先生は来ないですね。そうなったらハイクラスの先生も来ないし。

○藤原子育て支援・教育担当課長

大学生ばかりじゃないって言ってましたよね。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

大学生ばかりではないのですが。そういうようなご経験のある主婦等の方も採用さ

れています。

○高橋委員

これはでも勘違いしますね。

○津村委員

ね、ですよ。4人以下やったら個別なんやねってね。

○高橋委員

4人グループで教えてくれるんかみたいな。

○藤原子育て支援・教育担当課長

個別指導をちゃんと多分強調したいところである、多分。

○津村委員

多分そうなんでしょうね、確かに。

○茶谷委員

あと、成績によってというかそのレベルによってお子さんによって全然学力って変わってくると思うのですが。そのレベルとかに合わせてっていうわけでは、きっとなくて、押しなべて。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ただ個別に4人以下になるので、それぞれのやっぱりバランスというのは見れると思うのですよ。そんな二十人、三十人を一気に見てたらなかなか難しいと思うのですが。そういった学力に応じて指導はしていただけますので。

○高江洲委員

あくまでも基礎学力アップなのですね

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。ハイレベルを求めたいんですけど、なかなかそれはね、はい。

○杉村部会長

いや、でもオンライン自習室も設置しますってなってますよ。定期テスト対策とし

て。定期テスト直前だけですけど。これいいですよ、よう考えたら、ようよう見たら、ちゃんと読めばいいですね、これ。

○高江渕委員

ああ、特別講座やからね。

○杉村部会長

入試対策講座、中3でいけるんかな、めっちゃ頭いい子じゃないと。

○高江渕委員

そういう子は別に行ってるでしょ。

○杉村部会長

別に行ってるでしょうね。

○茶谷委員

でもぜひ一回ね、体験なり無料でね。ぜひとも行ってもらいたいから、やっぱり周知やと思いますね。みんな行きたい、一回は行ってみてよかったら続けるだろうし、嫌だったらやめるだろうし、でもとにかく助成があるんだったら。

○津村委員

この無料体験事業を前にしたら。

○茶谷委員

これだけをね。

○津村委員

見やすくないですか。

○茶谷委員

先にね。

○津村委員

前のほうが何かね、無料でできるんやったら一回行ってみようかなとかね。

○小川委員

さっきの6, 400人の内訳って小学生と中学生とか分かるんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

大体やっぱりあれですね、中学校のほうがやっぱり多いですね。真住なんか延べ人数で言ったら1, 872人とか。

○津村委員

ああ、すごいな。

○高江洩委員

それはあれ、一人。

○藤原子育て支援・教育担当課長

延べ人数です。

○高江洩委員

何回来ても、一人が5回来たら多いうてこと。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。そうです、そうです。

○高江洩委員

こんな行ってないですよ、ほんまは、子どもたち。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ただでも決められてるので。

○杉村部会長

真住2回、週2回。

○藤原子育て支援・教育担当課長

週2回とか、やられてる。

○高江洩委員

人気あると。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。そのほか、加賀屋塾でも600から800弱ですかね、あります。

○小川委員

多分これって学校別で見たときに、どこが弱いか強いかってあると思うのですよ。

多分それが周知できてるかできてないのかと、そんなんもつながってくるとは思
うのですけどね。学校の先生が推してくれてるか推してくれてないかもあるやろ
うし。

○茶谷委員

まずこういう塾の授業もそうですけど、まず学校の授業でちょっと気になることが、
何だろう、やっぱり今外国の方のお子さんとかが増えていて、そのまずそもそも日本
語が分からない方が多くて、その方になかなか手を取られているというようなことで、
ほかの子がというようなというようなことを聞いたりとかするのですけど、そういう
ことは今現状問題にはなっていないんでしょうか。

○小川委員

いや、めっちゃなってます。

○茶谷委員

やっぱりそうですか。これももちろん大事なのですけども、そもそも普通の授業
のところをもう少しね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

教育委員会のほうでも、そういったスクールサポートスタッフっていうのやったか
な、そういう人を派遣しながらとか、いろいろそういう授業への対応も進みつつあり
ます。いきなりちょっと急に中心部とかかなり多くなってきてると、大阪市内の中心
部も。そこでもやはりそういう同じような問題が出てますので、そこはある一定こち
らからも大阪市の教育委員会のほうにも、うちのこちらの住之江区の現状も伝えなが
ら、ちょっと対応を、依頼もさせていただいてるところですので、もうおっしゃるよ
うにやっぱり、そういう方の対応もやっぱりすることによってほかにも影響出たらと

いうご心配もよく分かりますので、そこも含めて教育委員会にもちょっと行っていき
たいと思います。

○茶谷委員

課外授業の前に、まずはね。

○高橋委員

そうですね。

○茶谷委員

そもそもの。

○藤原子育て支援・教育担当課長

整理ですよ。

○茶谷委員

そうです。

本当にね。

○高橋委員

そこは本当に分からないのですが、今まで学校で宿題をしないことっていう上の
子のときは、そういう流れだったのですが、去年、一昨年ぐらいからかな、何か学
校でしてもよくなって、だからさらに家でやらないですよ。宿題を学習時間とい
うのはちょっと違うと思うのですが、ただ家でやることすらなくなってるから家帰
たらゲームとかですね。学校で宿題やっちゃうと。教えてもらえるからいいとかい
うメリットもあるし、何か先生に聞くところによると、やっぱり家庭学習がどうして
も親御さんとか家庭環境の問題でできない子とかがいてるので、それだったら学
校でもいいよというふうになったとは聞いたのですが。でもさらに、家庭で学
習をしないとなるのがですね。そういったところも何かあるのかなとは思
うんですけどね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

先ほどもあったように、やっぱり家庭での勉強時間というのがやっぱり低いとい

ところも大阪市も全体的にもそうなので、そこは一定家庭学習という習慣も大事になってくるので、そこはそこで教育委員会としてもそういう方向性にはあるとは思いますが、はい。

○津村委員

あのね、ちょっと聞いていいですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

どうぞ。

○津村委員

この塾代助成カードって、結構みんな申請されてるものなのですか。逆に、申請できないのにしてない方とか、これを。

○高橋委員

知らない方もいる。

○津村委員

ねえ、知ってる方は多分申請してやってはると思うんですけど。

○杉村部会長

所得制限なくなったんちゃうんですか。

○高橋委員

なくなりましたね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね、全員に。

○杉村部会長

全員行けますよね。

○津村委員

いや逆にそれを、こういうのがあからぜひやってくださいねって言った上でこれをやったら、もっと来れるんじゃないかなと思って、どれぐらい今この申請ってある

んですか。

○杉村部会長

これ申請要るのですか。

○小川委員

要るんですよ。

○津村委員

要ります、要ります。

○小川委員

やし、これ使える塾と使えない塾あるねん。うち子ども無理やったらから、申請せえへんかったもん。

○高橋委員

毎年多分届くと思うのですけど。

○津村委員

そうそう。

○高橋委員

更新時期になったら、何月何日までに提出してくださいね、みたいな。

○津村委員

でもあれって全員に届くんかな、何か。

○高橋委員

うん。

○津村委員

だから、どういうあれで届く届けへんがあるのか。

○杉村部会長

来ます、来てましたよね。家に届いてました。

○高橋委員

家に届きます。

○杉村部会長

僕的时候はそんなもん全然足らんやんと思って、所得制限これ無理やろと思って。

○津村委員

そうそう、いやだからね、もうちょっと「こんなんあるからぜひ申請してね」みたいなでもね、何かこうあるんかなと思ったけど、いまいち。

○杉村部会長

所得制限を撤廃したら、もうそのままカード配ればいいのに、何でしないんですかね。

○高江湊委員

全員に来られたら困るんじゃないんですか。むちゃくちゃ助成したな。

○杉村部会長

でもそんなん、そんなん言い出したら・・・。

○高江湊委員

いやいやいや。

○杉村部会長

予算取ってるのに配れやって話になりますよね。

○高橋委員

ちょっとそう思っちゃいますね。

○高江湊委員

多分それもあるのかな。

○津村委員

いや、だからこんなんせっかくあるのにもったいない。

○杉村部会長

いや、アプリつくって全員が毎回お米券みたい落とせるようにしたらいいのに。

○津村委員

そう、そうですね。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

こども青少年局で大阪市全体になるのですけども、小学校5年、6年で、令和6年度のデータでいきますと、利用されてる方はおおよそ41.9%。

○津村委員

意外と少ない。

○杉村部会長

めっちゃ少ない。

○藤原子育て支援・教育担当課長

小学生ですよ。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

中学生が46%ということで、いずれも。

○杉村部会長

所得制限撤廃されてからそれってことですか。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

撤廃されて以降の数字になります。

○高江湊委員

そもそも習い事してなかったら、絶対要らないですもんね。

○杉村部会長

いや、まあそうやけど、だってダンスとかも使えるのですよ。

○高江湊委員

うちもサッカー使ってみました。

○津村委員

でも何か使えないところ意外と多いですね、何かね。

○杉村部会長

まあそれは多いですけどね。でも普及してないからですよ。

○津村委員

そう、やっぱりね。

○小川委員

普及せんから、登録せえへん。

○杉村部会長

そうすると、住之江区から普及するようにそれは言えないのですか。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

意見としてはお伝えもちろん。

○杉村部会長

あ、できるんですか。

○稲村子育て支援・教育担当課長代理

こういったご意見ございましたということで。

○杉村部会長

あ、それこそお米券みたいに。リージョンペイにするのかどうかは別として。ああいうお米券めっちゃいいと思うのですよ、みんな結構使ってると思うので。あのスキームにできないのかなと思うのですけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応区長会議でもそんな議論になってましてね。教育委員会さんには、そういった形でやっぱり登録者も増えてもらいたいですし、PRもすべきというご意見も出てますので、そこはある一定教育委員会としては認識されておるとは思うのですけど。

○津村委員

ああ、そうなんですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ですよね、いろんなバージョンで使えたらね。

○津村委員

そう。

○杉村部会長

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

なおかつ言ってあったスポーツもそうでしょうし、文化的な部分もあるし。

○高江洩委員

その、小川委員も言ってますけど、受け手側が嫌う人結構いてるみたいですよ。面倒くさいみたいで、その手続が。米券やったら、レジでピッてやったら終わりですけど、何かその管理するのがあっていって、一時始まったときよく言っていましたけど、うちの習い事の、今は何かスムーズに言ってますけど、最初の頃は向こうも分かってないからみたいなの。

○津村委員

最初めっちゃあれですよ、何か結局申請しても何か所得制限があるから無理とか言われて、あ、無理なんみたいなの。

○杉村部会長

あの所得制限、まじか、重要な所得制限でしたから。

○津村委員

あ、うちでもあかんねやって思って。

○高橋委員

でも、これ年の途中からでも確か申し込めるはずやから。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい。

○高橋委員

この例えばね、ここに書かれていますけどお持ちでない方は5,000円必要ですじやなくて、もうちょっと誘導したらね。まずここから作ってくださいみたいなね。

○杉村部会長

そうですね本当に。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ちょっと表現を、はい、ありがとうございます。

○杉村部会長

そうですね、塾代助成所得制限なくなりましたって書いといてほしいですよ。

○津村委員

だって塾生、この助成カードのPRみたいなものって、こういうのってないですね、カードの。

○藤原子育て支援・教育担当課長

その案内では入ってると思うのですがね。

○津村委員

ああ案内か、そっちなんか。

○杉村部会長

ああじゃあ、塾代助成の案内には入ってるの。

○藤原子育て支援・教育担当課長

塾代、塾代助成のあれじゃないんで。

○津村委員

ああ、そうか、そうか。

○杉村部会長

まあ、そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そっち側に入るので。

○津村委員

でもそれ持ってはる人やったらね。あ、これただで使えるやんみたいなあったりするからね。

○杉村部会長

はい、ほかにご意見ありますか。ごめんなさい、時間も差し迫ってますので、畑中委員、できれば。

○畑中委員

うん、そうですね。もうちょっとまとめてでいくと、例えば定員あると思うのですが、定員の人数は誰かが決めたんですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

一応事業者さんのほうから、キャパ的に人的保障というか人も用意しないといけないので、一応提案でいただいているような形になってます、はい。

○畑中委員

例えば、この人数の定員やないと塾側のメリットがないからこの定員にしてるのか、もしその来てる人数が例えば1校で8人だったら定員10人にしたらいいんじゃないですか。逆に三十人、四十人おるから、希少性を持たせるというか。10人しか駄目ですよというふうにするとか、それが8人しか来てないということでしたら。ただ、住之江の基本として基礎学力をアップさせたいという目的があるのでしたら、8人では多分足りないのかもしれないですね。でも今皆さんおっしゃってるように、ほぼほぼほとんどの方が塾行ってはると思うのですね。だから行ってないほうが、私の妻にも聞きましたけど、もう既に子どもが塾行ってるので行ってる上にまだこれに行く必要があるのかということになってきてたりしてたんですね。あと実際塾行ってない方が行ってもらって、行ってもらおうようにするのであれば、例えば実際通ってる方の声を出すとか。うちの息子、娘は、これに行ってこんなんやったんがこうなりましたというふうな声を上げてもらえれば。あ、なるほどと言うので、もしかしたら次のこと

でやってくれる方もいらっしゃるかもしれないですよ。そういうのは何となく思いますけど。人数とか難しいかなと思いますけど。

○藤原子育て支援・教育担当課長

利用者の声というか、そういうやつですよ。

○畑中委員

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ちょっと事業者さんにも一度調整してみます。

○畑中委員

なかなか、やっぱりその個人的な声とか難しい、まあどっちにしても結構見えるようにするというのが一番いいんじゃないでしょうかね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

確かにね。

○畑中委員

はい、そうしたら多分。

○藤原子育て支援・教育担当課長

先ほど茶谷委員も言っていた、イメージが湧くとかね。

○畑中委員

そうですね、はい。

○藤原子育て支援・教育担当課長

こんなんよというのも分かるというような。

○畑中委員

行けると思いますね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○畑中委員

あとは何か、もう純粹にもうめちゃくちゃ悪いやり方ですけど、特典つけるぐらいでしょうね。来たら何かあげますみたいなね。本当に増やして学力アップする目的にするのであればですけどね、そうでないのであれば、そっちのイメージというような感じでいいのかなとは思いますがね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ありがとうございます。

○畑中委員

はい。

○高江渕委員

顔出しの問題もあると思うんですけど、せっかくだったらすみのえLABOさんとも住之江区連携したんで。そこに、お願いするとか。動画であれやったら、何かよく顔出しオーケーの子だけボードに何か書いてこうやってやる写真あるじゃないですか。ロコミみたいなものですよね、要はね。すみのえLABOさんとか、協力。

○畑中委員

あ、じゃあもう一つすみません。

○杉村部会長

ああ、どうぞ。

○畑中委員

この、僕もこれすごくいいなと思ってたんですけど、開校の日付とかはあるのですけど途中からでも入れるのですか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

入れます、入れます。

○畑中委員

ああ、やっぱりそれもできたら文言として書いといてあげたほうが。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ああ、なるほど。

○畑中委員

もう時間、日にち過ぎてるとなってしまうたら、積極性はなくなるかもしれないので。

○杉村部会長

一応右下にね、何せちっちゃくね、この米印で開校後も定員に達するまでは募集してますって書いてあります。

○津村委員

ははは、確かに書いてる。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ここにちっちゃくね。

○津村委員

確かに。

○杉村部会長

どちらも、中学生も小学生も定員達したら無理なんでしょうね。先生派遣。

○畑中委員

何か、うん、そうですね、入りやすいとか行きやすいという文言をしてあげたらいいんじゃないかなと思いますね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

分かりました。そうですね、PRの仕方、方法と、どんなかという内容で。

○杉村部会長

そうですね。中学3年生を対象にしてもしやあないと思いますけどね。もうおっしゃってたように、大概行ってると思います。3年生、中3は。

○畑中委員

まあ目的として基礎学力アップということであれば、それを。

○杉村部会長

そうですね、そうですね、基礎学力ですね。そもそも塾も行ってない、なんなら高校受験もせえへんという子。

○畑中委員

はい、ないことはないですけど、でもそういう子らが果たしてその基礎学力をアップする目的求めるのかどうかという難しさもあると思います。どうでしょうね、その区としてはこういう学力アップさせたい。

○杉村部会長

そうですね、広くですよ。

○畑中委員

というのもありますけどね。難しいかなと思いますね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

できればね、なるべく門戸を広く。

○畑中委員

そうですね、はいはい。

○藤原子育て支援・教育担当課長

広げてあげてね、そこでどうするかは本人の頑張りにもなってきますし。

○畑中委員

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ご家族のご判断にもなると思うのですがね。できれば、3年生も入れたいな。

○畑中委員

全然いいと思いますよ。地道にね、多分そういう子が3年になったらね。

○杉村部会長

そうですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

いえいえ、いい意見ですよ、その集中してやるというのもいい意見だと思いますので、はい、確かに。

○畑中委員

あると思いますもんね。

○杉村部会長

おっしゃるとおりやと思います、すみません、はい。

○茶谷委員

あと、ごめんなさい、時間ないんで。

○杉村部会長

最後の時間で。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい、いえいえ。

○茶谷委員

私は皆さんと違って子育て世帯ではもうなくなって、孫がいるという立場もあって、小さい子というところもすごい気になってここにいらせてもらうこともあるのです。まず自分の子育てを経験した中で、今、今がどうなってるか分からないので教えていたいただきたいのですが、中学校とかの給食、小学校もなんですけど、給食って今皆さん満足いくような内容で食べられてるのかっていうところがあって、いまだに中学のときの給食がほんまに嫌やったって、ずっと言うのですよ。今この給食がどうなってるのかっていうところも聞きたくて、無償化になっていってというのはいいんですけども、それによってその材料が減ったりとか分量が減ったりとか、特においしくなくなったりとかそういうふうになっていくのが非常に危惧しているのです。

○高江湊委員

僕、中学生と小学生の子どももいますが、中学生の娘はもう何か多過ぎて食べられへん、量的には多分全然足りてるんじゃないかな。

○茶谷委員

味とかは。

○高江渕委員

あとはね、うちの子どもも好き嫌いあると思うのですが、何か見とったら僕らのときにはないようなメニュー。

○茶谷委員

へえ。

○高江渕委員

はい、もう給食でこれ出てくるんやっていうメニューが結構あるので、やっぱりそういう意味ではね。

○杉村部会長

僕も、今はよくなったっていうのすごい聞きます。

○茶谷委員

ああ、そうなんですか。

○杉村部会長

一番最初の頃って、何か騒がれてた頃ありましたよね。あの頃は何かひどかったっていうのは聞き、うちの娘なんか世代なんですけど。

○茶谷委員

そうなんや、変わってるんですね。やったらよかったですけど。いまだに、思い出しても嫌やったって言われて。

○津村委員

小学校の給食試食会というのは出させてもらいましたけど。

○杉村部会長

今でもやっていますよね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

ああ、そうですね。

○津村委員

うちのところまだあるんですけど。

○茶谷委員

小学校はね。

○津村委員

全然おいしかったですよ。

○茶谷委員

中学校がね、お弁当か何かのときやったと思いますけど。すごいもう、ずっと嫌や嫌やって。

○杉村部会長

あれでめっちゃ言われたから、大分変わったんやと思います。

○茶谷委員

ああ、そうですか。

○高江洩委員

どっかのニュースで。

○杉村部会長

ニュースでも取り上げられましたもんね。

○茶谷委員

から揚げ一個とかね。

○高江洩委員

ねえ、あれは、ねえ。

○茶谷委員

ひどいやつだったから。

○高江洲委員

あんなんに言うと。

○茶谷委員

いや、今どうなってるのかなっていうのと。

○高江洲委員

何やったら、ちょっとぜいたく過ぎるぐらい多分食べてると思いますね、今の子は。

○茶谷委員

あともう一個、私が子育てしてたときに、公園で遊んでる息子の友達がいる、ずっと公園にいるんですよね。結局今で言うネグレクトという生活保護のご世帯のご両親で、生活保護なんだけどパチンコ行っててというような、でも子どもは口止めされてるから絶対言えないというような子がずっと公園でっていうのがあったりとかして、何かいまだにそれがすごい何か気になったりとかするのですけれども、それそのネグレクトだったりとか、ここに書かれているような子を発見するのに、どういった取組をされているのか今ちょっと分かってないので。

○藤原子育て支援・教育担当課長

なるほど、分かりました。

お答えできる範囲ですけど、まずは学校とかで臭いがきつかったりとか、給食をもうがむしゃらに食べるとか、そういった情報があればやっぱり家庭の状況を確認しに行く、学校の先生が行くのか子育て支援室が行くのか含めて、ちょっと情報もらいながらということ。

○茶谷委員

家庭訪問したりとか。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。ほんで夜に行ったりとか、今日も行ってる職員いますけど、夜に。あ

と昼間はなかなか会えないので、夜一人でおるん違うかとかそういうのも含めてうちの職員らが訪問を逐一行くように。

○茶谷委員

職員さんが行かれてるんですね。

○藤原子育て支援・教育担当課長

職員で行かないと、もし何かあったときになかなか難しいと思うので、またそういう気になるお子さんいらっしゃったら、子育て支援室のほうに電話いただければと思っています。

○茶谷委員

分かりました。

○藤原子育て支援・教育担当課長

これは、この人は無事行けましたよとはお答えはなかなかできないのですが、僕らが一応確認も含めてお母さんの困り事も含めて、確認しに行くということで一個一個ちょっと対応を。

○茶谷委員

本人が行かなくても、周りが気づいたら子育て支援室に連絡するとか、そういう感じに。

○藤原子育て支援・教育担当課長

そうですね。それとかもし泣いてる子どもとかおればとか、お母さんでも泣いてる人とかおればね、どうしたんとか声だけかけてもらって、もしあれやったら区役所にも一回言おうとかね言ってもらったら、時々お母さんもしんどいお母さんもいらっしゃるんで、そこは僕らも気をつけていきなり責めるんじゃなしに大丈夫ですかとかね、そういう形で行きますのでね。

○茶谷委員

分かりました、ありがとうございます。

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい、ぜひ、お願いします。

○杉村部会長

いいですかね、皆さん。

それで予定しておりました時間となりましたので、終了したいと思います。

本日の会議内容につきましては、区政会議の全体会において情報共有を図ることとしております。

今回の区政会議の全体会は3月17日火曜日に開催予定としております。

決定次第、事務局からお知らせいたします。

また事務局におかれましては、本日の議論内容を整理いただき、全体会で報告できるよう資料の取りまとめをお願いしたいと思います。

本日予定しておりました議題は以上でございますので、部会を終了いたします。

議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

最後に、事務局から何かありましたらお願いいたします。

○藤原子育て支援・教育担当課長

すみません、杉村部会長ありがとうございました。

本日は皆様におかれましては、長時間にわたりいろいろな角度からのご意見ありがとうございました。

いただいたご意見はしっかりと受け止めまして、今後の区政に反映していけるように取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き皆様どうぞよろしく願いいたします。

先ほど部会長からもございましたけども、本日の議論内容を事務局のほうでまとめさせていただいて、杉村部会長にちょっと一任してご確認いただくということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○藤原子育て支援・教育担当課長

はい、すみません。

そうでしたら、また3月17日火曜日に全体会で開催する際に、杉村部会長からご報告いただきたいと思います。

また3月17日ですね、お忙しいと思いますけれども、ぜひ出席のほうよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、以上で終了したいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

以下余白